

成果の説明書

| | |
|--|-------------|
| (氏名) 佐藤英人 | (学部) 地域政策学部 |
| <p>1 重要事項</p> <p>○教育上の成果に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none">・本年度は、初年次ゼミ、演習Ⅰ、演習Ⅱ、現代の都市問題、都市地理学、都市地理学特論（大学院）、地域活性化特論（大学院）を担当した。例年と同じく、学生が予習できるように、レジュメ等を Dropbox で事前配布するように努めた。授業はパワーポイントで図表や写真を視覚的に提示するなど、イメージしやすい授業運営を心がけた。加えて、学生との対話を大切にし、机間巡回の際、積極的な問いかけをおこなった。その結果、「授業に関する学生アンケート（後期）」では、地理学（履修者 49 名）の総合評価が 91.6 点となり、大学全体の平均点（83.3 点）を大きく上回った。特に教員の話し方と授業時間の遵守の項目で高い評価を得た。・ゼミ内定生（2 年生）を対象としてプレゼミを実施した（隔週水曜日 5 時限）。プレゼミでは学生の興味関心に基づき、リチャード・フロリダ 2014『新 クリエイティブ資本論—才能が経済と都市の主役となる』ダイヤモンド社、488p を輪読した。輪読で得た知見を深めるために、東京巡検（豊洲～月島～築地）を 2018 年 12 月 8 日に実施して、世界都市東京で展開されている再開発の現状を学んだ。・演習Ⅰ（3 年生）ではグループ研究をおこなった。本年度のテーマは高崎市中心部の土地利用変化であり、成果の一部は 2018 年 11 月 2 日に開催された三扇祭プレゼンテーション大会で発表した。演習Ⅰでは毎年、海外巡検を実施している。現地集合・現地解散を基本とし、ゼミ生が独力で海外渡航できる能力の涵養に努めている。本年度は 2018 年 8 月 27 日～30 日にシンガポールとクアラルンプールを訪問し、陸路でのイミグレーションを経験した。・演習Ⅱ（4 年生）は、卒業論文指導が中心となる。就職活動で多忙になる学生が多い中、定期的に執筆状況の報告を求めながら、適宜、ドラフト原稿の添削指導をおこなった。ひとりの落伍者が出ぬよう、ゼミ生が常に協力し合って卒論執筆を進めるよう指導した。その結果、本年度卒業予定のゼミ生は、全員無事に卒論を提出した。 <p>○研究上の成果に関する事項</p> <p>1) 論文・著書</p> <ul style="list-style-type: none">・佐藤英人「日本における空き家の概況と先行研究の動向」高崎経済大学地域科学研究所編『空き家問題の背景と対策—未利用不動産の有効活用—』日本経済評論社（序章）。・佐藤英人「人口置換がすすむ郊外住宅地と空き家化の抑止—西武吉井ニュータウン南陽台を事例として—」高崎経済大学地域科学研究所編『空き家問題の背景と対策—未利用不動産の有効活用—』日本経済評論社（第 10 章）。・佐藤英人・清水千弘・唐渡広志「最寄駅徒歩圏居住に向けた中古集合住宅の役割—2000 年代前半の東京大都市圏を事例として—」人文地理 70-4, pp477-497.・佐藤英人「人口減少・少子高齢化社会と対峙する郊外住宅地の将来」地域政策研究 21-4, pp67-81.・佐藤英人「統計不正問題を憂う」日本地域政策学会ニュース, No.120.・佐藤英人「中国企業調査」地域科学研究所ニューズレター, No.10, pp10-12. | |

2) 学会発表・講演会等

- ・佐藤英人「東京一極集中と地方創生を考える」2018年度高崎経済大学地域科学研究所，第3回連携公開講座，高崎市中央公民館，2018年6月2日。
- ・佐藤英人「人々が集う魅力的なまちづくりとは？—東京都心の再開発を例に一」群馬県立沼田高等学校出前授業，2018年10月23日。
- ・佐藤英人「未利用不動産（空き家）に関する既存研究の動向ほか」地域科学研究所空き家特別措置法施行後の空き家対策に関する総合的研究 論文検討会，高崎経済大学図書館ホール，2018年11月10日。

3) 競争的研究資金等

- ・「地方都市における中小製造業の海外進出に関する研究—中国を事例として—」平成30年度高崎経済大学研究奨励費，研究代表者：佐藤英人（新規）。

○職務上の成果に関する事項

1) 学外業務

- ・日本地理学会 編集専門委員会 委員（2016年6月—現在）
- ・経済地理学会 総務委員会 幹事（2016年4月—現在）
- ・日本地域政策学会 理事 編集副委員長（2018年6月—現在）
- ・日本地域政策学会 関東支部 事務局長（2016年2月—現在）

2) 学内業務

- ・入試検討委員会では、定例会議に出席し、入試改革および合否判定等に参画した。広報委員会では、オープンキャンパスにおけるゼミのパネル展示、進学相談会の対応などを務めた。なお、本年度の出前授業は群馬県立沼田高等学校で開講した。
- ・引き続き、教員免許状更新講習の講師を担当した。「郷土を知ろう（群馬の地理と歴史）」と題して、地理情報システム（GIS）を用いたPC実習をおこなった。

2 その他の事項

- ・2018年度日本都市学会賞（奥井記念賞），2018年10月。

3 次年度以降の計画・抱負

- ・教育上の計画としては、授業改善を継続し、教員—学生間、学生間の双方向教育（集団討論の時間を増やすなど）の実践につなげていきたい。とりわけ、学生による自発的な学びの醸成が大きな課題である。
- ・研究上の計画としては、下記論文を校了させると共に、継続中の2本の学内プロジェクト（長野堰用水の歴史と利活用に関する研究、地方都市における中小製造業の存立基盤に関する研究）の成果をとりまとめたい。
- ・佐藤英人・中澤高志「不動産競売からみた郊外住宅地の新たな問題—東京大都市圏を事例として—」地理学評論の短報へ投稿予定
- ・佐藤英人「都市郊外における高齢化と購買行動—高崎市吉井町を事例として—」日本地域政策研究の特集号へ投稿予定